

熊本高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	古典文学	
科目基礎情報							
科目番号		0072		科目区分		一般 / 選択	
授業形態		授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2	
開設学科		共通教育科 (八代)		対象学年		5	
開設期		前期		週時間数		2	
教科書/教材		配布プリント					
担当教員		道園 達也					
到達目標							
1. 歴史的仮名遣いの古文を音読できる。 2. 参考書を活用し、古典文法の基礎を踏まえ、古文を現代語訳できる。 3. 自ら課題を設定し、自分なりに考察できる。 4. 提示された論点を整理し、ディスカッションできる。 5. 課題に対して、主体的に取り組むことができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		歴史的仮名遣いの古文を、流暢に音読できる。		歴史的仮名遣いの古文を音読できる。		歴史的仮名遣いの古文を音読できない。	
評価項目2		参考書を活用し、古典文法の基礎を踏まえ、古文を分かりやすく現代語訳できる。		参考書を活用し、古典文法の基礎を踏まえ、古文を現代語訳できる。		古文を現代語訳できない。	
評価項目3		自ら課題を設定し、自分なりに考察し、論理的に分かりやすく表現できる。		自ら課題を設定し、自分なりに考察できる。		自ら課題を設定し、自分なりに考察できない。	
評価項目4		提示された論点を整理し、積極的にディスカッションできる。		提示された論点を整理し、ディスカッションできる。		提示された論点を整理し、ディスカッションできない。	
評価項目5		課題に対して、主体的に取り組むことができる。		課題に対して、主体的に取り組むことができる (8割以上)。		課題に対して、主体的に取り組むことができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		古典文学に表現された人間の知を読み解きたい。人生や社会、自然に対する思想と感性は、共通性と差異によって〈いま・ここ〉に生きる私たちの姿を照らし出してくれる。様々な古典文学を読むことで、その一端に触れたい。					
授業の進め方・方法		『土左日記』を精読する。学生は本文と現代語訳、および課題設定と考察の資料を作成、口頭発表を行う。また、その他の学生は事前に該当箇所を通読し、発表者の評価と同時に、発表後の質疑応答をおこなう。以上の作業によって学習単位への対応とする。古文への抵抗感をやわらげ、その世界が身近に感じられるように配慮したい。					
注意点		全受講生は、次時の範囲を読むこと。 全受講生はテーマについて質疑応答をおこなう。					
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス (近現代文学から古典文学へ)			授業の概要を理解する。	
		2週	古事記			表現の特色を理解する。	
		3週	竹取物語			同上	
		4週	伊勢物語			同上	
		5週	古今和歌集			同上	
		6週	歌をつくる			同上	
		7週	源氏物語 (1)			同上	
		8週	中間試験			表現の特色を理解し、分かりやすい文章で説明できる。	
	2ndQ	9週	方丈記			表現の特色を理解する。	
		10週	平家物語			同上	
		11週	奥の細道			同上	
		12週	俳句をつくる			同上	
		13週	曽根崎心中			同上	
		14週	雨月物語			同上	
		15週	前期末試験			表現の特色を理解し、分かりやすい文章で説明できる。	
		16週	前期末試験の返却と解説			同上	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。		3	
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。		3	
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べることができる。		3	
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。		3	
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。		3	

				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3	
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3	
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	3	
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	3	
				合意形成のために会話を成立させることができる。	3	
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3	
				どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	3	
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	3	
				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	3	
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3	
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	
				当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	3	
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	3	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でどのように活用・応用されるかを説明できる。	3	
				コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	3	

評価割合

	試験	課題・音読					合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	80	20	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0